

西部パレット利用者連絡会ニュース

【発行】西部パレット利用者連絡会幹事会

【発行日】2011年8月20日 NO.14号

● 「西部地域交流プラザ・パレット」存続の危機！

6月10日、パレットの今後についての、第1回の「あり方検討会」が行われました。

県から、西部地域交流プラザの設置からこれまでの運営の経緯、また、県のNPO推進の経過、そして、これからの方向性の説明がありました。

県の意向としては、県のNPO施策は、中間支援（の育成）という次の段階にステップアップしているから、ハード面は市町に役割分担したいということでした。今回の「検討会」は、県から、新しいNPO施策のついでの説明（レクチャー）があります。「あり方検討会」の会議は、2か月に1度の割合で開催する予定で、平成24年8月31日が期限となっています。それまでに結論を出し、平成25年度の計画を立てるとのことです。

昨年、県は「パレット縮小・移転案」を出し、私たちの「存続要請署名」運動の結果、「縮小・移転案」を撤回し、「2年間は現状維持とし、話し合う」ことになりました。しかし、県の意向は、「24年8月末まで時間をかけて、県の考えをパレット利用団体・関係者に理解してもらおう」というものです。ハード面（パレットの施設）は市町（浜松市の施設）に任せて、「パレットの役割は中間支援に重点をおく」ことになるので、ちょっとした事務スペースがあれば充分だ」ということになり、「今のようなパレットは必要ない」というのが本音のようです。

「利用者連絡会」としては、昨年度8月の県民会議で出た結論を述べました。「障害のあるなし、国籍の違い、若者から高齢の方に至るまでが、あの場所に集い、お互いの活動を知ることができる場所が西部パレットであり、その名のとおり、いろいろな色が混じり合い、バリアフリーの意識を育み、実践の場であり、すてきな市民が育つ場となっている。費用の減額が必要ならば、スペースを減らす覚悟もあるので、存続して欲しい。」と。

● 「利用者連絡会・全体会」を開催しました 全団体から「パレット存続要請」の声をあげましょう

このままでは、パレットの存続が危ういと考え、「利用者連絡会・幹事会」として、県の考えについて知るために学習会を開催し、8月12日に「利用者連絡会」としての方向性を話し合うために、「全体会」を開催しました。

「全体会」の参加者から、存続を希望する多くの意見がだされました。なかでも、パレットの重要性、とりわけ障害者就業支援施設などとの複合施設として存在していることによって、利用者に様々な交流が生まれること、福祉政策の推進においても他に代えがたい有意義な施設になっていることは、強調したいとの意見が大勢でした。

その他に、主なものを紹介します。「視覚障害者にとって、ネット環境が整い、使えるパソコンがあることによって、ここに来れば社会と深くつながることができる。「同じ道を歩く」ことによって、安全も保たれる。」「日本語NPOは、週2回利用している。」「中心市街地活性化のためにも、前向きに考えるべきだ。」など。

他面、「全体会なのに、全利用団体から見れば、一部の参加に限られている。「誰かがやってくれる」ではだめだ。」「県ばかりでなく、浜松市にも働きかける必要がある。」「利用状況や、今後のあり方について、全利用団体がそれぞれ1枚ずつ書こう。」などの、存続をめざす運動の進め方についての意見も出されました。

各団体1枚の「要請書」については、幹事会で検討して、10月のニュースとともに、各団体に届けますので、「連絡会幹事会」または、「パレット」まで“声”を届けてください。（詳しくは、次回案内します）